

# 愛知県 精神医療センター ニュース

[ 愛知県精神医療センター広報誌 ]



特集 医局

教えて先生！  
定年退職を迎えるにあたって

INFORMATION  
Twitter 公式アカウント開設

## 教えて先生！

vol. 10  
定年退職を迎えるにあたって

この令和5年3月をもって、定年退職を迎えることになりました。当院には、平成3年4月から常勤として働き始めましたので、かれこれ33年間お世話になったこととなります（パート勤務の期間を入れますと、もう1年半延びます）。入職当時は、臨床心理士資格ができたばかり（公認心理士に至っては影も形もありません）で、一応その資格を持ってはいるものの、専門家というにはほど遠いありさまでした。そんな私が、縁あって愛知県の精神科医療の中心である当院に入職し、多くの患者様と触れ合い、多くのスタッフと出会って、多くのことを学ばせていただき、臨床心理士・公認心理士として鍛えられてきました。

その間、精神病圏や人格障害圏の患者様への個人心理療法を中心に、仕事をしてきました。しかし、何年経っても心理療法がうまくいかず、自分の非力さを嘆いていましたら、当時のスーパーバイザーに「君は、自分がみている患者様を、河合隼雄や小此木啓吾が心理療法をしたら、上手くやれると思っているだろう。そうじゃない。君がみている患者様たちは、心理療法がギリギリ手の届く人たちで、どんな名人がやっても君と同じように苦勞するんだよ」と言われました。当時は、私を慰めるためにそう言われたのだと思いましたが、今になって、それは本当だったと納得できます。私たちは、それほど手ごわい病気や障がい、日々相手にしているということでしょうし、それだけ、患者様たちから学ぶべきことがたくさんあるということでしょう。



今号の先生

総合医療部  
臨床心理科長

山田勝

個人心理療法の他にも、他職種の方々と協働して、SSTや家族心理教育を立ち上げ、青年期治療ユニットである「ヤング・グループ」やデイケア、医療観察法病棟などにも携わってきました。それらを実施・運営する中で、精神的な病気や障がいを抱える人たちへの支援は、とても心理士が単独でできることではなく、他職種の方々の手助けがなければやっていけないと、つくづく感じました。病院事業の面では、大きなこととして改築がありましたが、その時にも、事務部を含め他職種の方々と協働作業が不可欠でした。

こうして、私は患者様や他職種の方々に支えられ、教えられて、何とかここまでやってこることができました。厚く御礼申し上げます。私が去った後も、今まで同様に、臨床心理科をご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしく願いいたします。



## Information

### Twitter 公式アカウント開設

当センターは令和4年10月にTwitterの公式アカウントを開設いたしました。アカウント名は「愛知県精神医療センター」、ユーザーIDは「@apmc\_aichi」です。当センターのイベント等の情報はもちろん、四季折々の院内風景といった精神医療センターの日常も発信しております。まだまだ内容を模索している段階ですが、地域に開かれた精神科病院を目指すため、Twitterの公式アカウントを通して精神医療センターの新たな一面を皆様にご覧いただきたいと考えております。ぜひ公式アカウントをフォローしてみてください。

フォローはこちら！



# 医局

医局の1日

## Start!!



#病棟カンファレンス

早期退院を目指して、治療や必要なサポートについて定期的に話し合っています。看護師や精神保健福祉士などの多職種で意見を交換することにより良い治療を目指します。



#外来診察

患者様の話を一人一人じっくり聞きたいと思っておりますが、順番を待ってみる方もいるので、葛藤の毎日です。



#ベッドコントロール会議

毎朝、看護師長や精神保健福祉士と前日〜夜間の入院・救急対応、当日の患者様の受け入れ予定を共有しています。円滑に患者様の治療を行うための朝一番の大事な会議です。



**クルズス**  
定期的に勉強会を開き、知識をアップデートしています。



#コロナ受け入れ会議

安全に新型コロナウイルスウィルス感染の患者様に対応できるよう、受け入れの際は事前に関係部署と情報を共有し、段取りの確認を行います。



#ランチ

売店のお弁当は日替わりで、日々の楽しみとなっております。最近はお弁当も入るようになりました。



#病棟診察

より良い治療を行うため、患者様との関わりを大切にしています。そのため、できるだけ病棟に足を運ぶよう心がけています。



院長回診

週1回全ての病棟を回り、入院している患者様の状況を確認しています。



#レクリエーション

患者様と一緒に行事に参加することも、みんな全力で楽しんでいます！



#医局会

週に1回、診療や病院の運営について、医師全員で集まって情報共有や検討を行っています。



## 当直

夜間や休日には一人の医師で対応しています。しんと静かな病院は普段と異なり独特の雰囲気です。

## 漫画で一息

業務も終わり、少し休憩です。一息ついて、明日も頑張ります。



最近のキングダムがアツい！

患者様やご家族に加えて、地域の支援者の方と生活に必要なサポートについて検討していきます。いつも皆様から協力いただき、ありがとうございます。



#ケア会議

当院の医局には現在17名の医師が属しています。壮年を中心に老壮青年各年代の医師がそろっており、女性医師も多く活躍しています。精神科のどの分野にも対応できるジェネラリストを屋台骨に、児童思春期の情緒障害や発達障害、成人の発達障害、老年期の認知症、災害精神医療、司法精神医学、薬物依存など多岐に渡る分野の専門家が活躍しています。

各医師は、専門分野でリーダーシップを発揮するとともに、公立病院ならではの公共性の高い業務を行政、教育、研究、臨床の場で担っています。保健行政（実地または書類上での様々な審査）、精神鑑定、医療観察法医療、DPAT（災害派遣精神医療チーム）派遣、研修医や医学生生の臨床教育、看護学校や大学等での講義、新しい薬の治験、民間病院で対応困難な患者さんの受け入れ、ECT（修正型電気けいれん療法）、特別な配慮を要する薬物による治療、等々たくさん業務があります。各医師は、多くの業務に任せてこ舞いになりながら、県内の精神医療の「最後の砦」であるという使命感を持って懸命に働いています。今後も、県民、地域の皆様のご理解とご協力を得ながら、精神医療の向上に努めてまいります。

